

平成25年度ICT利用による教育改善研究発表会 受賞者決定

1. 本発表会の趣旨

本発表会は、全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT活用によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的として、平成5年より実施している。優れた発表に対しては論文誌「ICT活用教育方法研究」に掲載するとともに、文部科学大臣賞（最優秀賞）や私立大学情報教育協会賞（優秀賞）を授与し、その教育業績を顕彰する。

本発表会は今年度で20回目となり、これまでに文部科学大臣賞5件、協会賞31件、奨励賞42件、佳作4点を顕彰してきた。なお、本発表会では毎年度、文部科学省の後援と文部科学大臣賞の交付が認められている。

2. 選考方法および結果

今年度のICT利用による教育改善研究発表会は、平成25年8月10日に東京理科大学森戸記念館で開催し、人文、社会、理工、情報、医療、芸術系の分野から32件の発表があった。選考は、「教育上の問題解決を図るために、ICT利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること」「ICTを利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること」「客観的かつ具体的な成果により、教育改善の効果が示されていること」を基準に行い、授賞選考委員会により9件の研究を選考した。その後、10月5日に行った2次選考の結果、「奨励賞」2件の授賞が決定した。

表彰式は、平成25年11月26日に本協会の第8回臨時総会の冒頭に行い、文部科学省高等教育局専門教育課の小林洋介企画官による来賓挨拶、ICT利用教育改善発表会運営委員会の宮川裕之担当理事による発表会の概要説明と本年度結果報告の後、本協会の向殿政男会長による奨励賞の表彰楯の授与を行った。受賞者は次の通り。



（左から文部科学省専門教育課小林企画官、受賞者日本歯科大学葛城氏、北海道医療大学より二瓶氏、本協会向殿会長）



本協会向殿会長



文部科学省小林企画官

平成25年度ICT利用による教育改善研究発表会 受賞者

奨励賞

■ 「講義に替わりうるICTを用いたチーム基盤型学習（TBL）システムの開発」



日本歯科大学
新潟生命歯学部
葛城 啓彰

<授賞理由>

本研究は、微生物の特性や感染症の予防・対処方法を学ぶ「感染微生物学」にチーム基盤学習（TBL）を導入した取り組みである。予習確認テストへの即時フィードバック、グループで行うメモリーツリー作成、発表の相互評価に携帯端末によるレスポンスアナライザーを活用することで、事前・事後学修の徹底や授業の活性化に挑戦している。

■ 「歯学教育を支援する学習到達度判定・Web自己学習統合システム」



北海道医療大学
薬学部
二瓶 裕之



北海道医療大学
歯学部
齋藤 隆史



北海道医療大学
薬学部
和田 啓爾



北海道医療大学
薬学部
小田 和明



北海道医療大学
薬学部
中山 章



北海道医療大学
薬学部
唯野 貢司



北海道医療大学
歯学部
千葉 逸朗

<授賞理由>

本研究は、歯科医師国家試験を見据えた幅広い分野の知識を6年間の学びの中で定着させるため、専門教育科目についてICTを活用した到達度判定（CBT）を実施して不得意分野を学生に認識させ、不足している知識をWeb学習システムで繰り返し学ばせている。ポートフォリオによる学習成果の確認と指導、教員の組織的参加など、教育支援に学部全体で取り組んでいる。